

校内研修計画

山梨市立三富小学校

1. 学校課題

(1) 地域の実態より

本校は、山々に囲まれた自然豊かな地にある。国道が走る中、その国道沿いに縦長に学区が広がり、子どもたちの多くはスクールバスで登下校をしている。少人数のため、逆に学年を離れた中での子どもたちのふれあいも多い。多くの子どもたちが住んでいる興南や雷の住宅では、帰宅するとすぐ子どもたちが集まり、みんなで野球をしたり自転車に乗ったりして遊んでいる姿も見られる。しかし地域差もあり、広瀬、青笹などでは家と家とが離れているため、帰宅後は遊ぶ相手がないという実情もある。また、自然に囲まれている反面、熊やイノシシなどの出没の危険性もあり、友達同士で十分関われないという側面もある。こうした環境の中で生活する本校児童は38人（平成26年4月現在）学級数は7学級（特別支援学級1含む）である。

(2) 児童の実態（今年度教師アンケートより）

児童の実態のアンケートから、本校の児童には、基礎的・基本的な知識・技能の習得や理解に個人差・意欲差が大きいこと、困難な課題に対してすぐにあきらめてしまう傾向が大きいこと、考える力・自主性・表現力等の育成が課題であることが浮き彫りとなっている。

昨年度までの研究内容のうち活かせるものを継続し、本年度の研究は、算数科において基礎・基本の定着を図ることに重点をおき、身に付けた知識や技能を活用できる力を育てていく共に、課題に対して、粘り強く取り組む態度を育てていくことが大切であると考えている。

2. 研究主題

『楽しい学校(楽校)の創造をめざして』

～算数科において基礎基本の定着を図り、活用する力を身に付けた児童の育成をめざす～

3. 主題設定の理由

本校では、「楽しい学校（楽校）の創造」を基本目標とし、以下を学校教育目標に掲げている。

「楽しい学校（楽校）の創造」

—かしこく やさしく すこやかに—

■進んで学ぶ みとみっ子（知育）

■思いやりのある みとみっ子（徳育）

■じょうぶで元気な みとみっ子（体育）

この目標は、どのような社会の変化にも対応できる「生きる力」をもった、知・徳・体の調和のとれた児童の育成を図ろうとするものであり、教育活動のあらゆる場面を通して具現化していく必要がある。

「知育」とは、確かな学力を育み、楽しくわかる授業を創造することである。教材教具、指導方法を工夫し、基礎基本を身に付けさせることが大切となる。「徳育」は、道徳教育を要とした心の教育のことであり、教育諸活動の様々な場面で形成されていく。「体育」は、体力づくり運動の実践や健康・安全・食教育の充実によって図られる。これらの実践的・体験的活動は、本校教育課程全般の中に三富小学校の特色を生かしながら編成されている。

昨年度までの研究で、言語活動を充実させるためにスピーチ広場や親子読書等の全校的な取り組みや様々な教科での授業研究を通して思考力、判断力、表現力が高められ、ある程度の成果が上がった。また児童がさらに楽しく学習できるように、NIEについての知識を広め、実践的研究を行い、よりよい形で教材として活用していくことができた。

本年度の研究は、昨年度までの研究の成果を生かしながら、児童の確かな学力の定着と向上を軸に進めていく。算数科において基礎・基本の定着を図ることに重点をおきつつ、授業の中に思考する場面や表現する場面を可能な限り仕組んでいく。この取り組みを積み重ねることで、児童に活用する力が育まれると考える。基礎的・基本的な知識や技能を活用できる力を育てる中で、児童に課題を解決

するために必要な思考力・判断力・表現力を育成することをめざす。また、主体的に学習に取り組む態度を養うことで、確かな学力の定着・向上へつなげることができ、学校教育目標の具現化に迫っていくことができると考えた。

以上のような理由から、本校の研究主題と副主題を設定した。

4. 研究の具体的内容と方法

(1) 「活用学習」についての理論研究

学習会(外部講師招聘を含む)の実施により、研究テーマに関わった理論や先行研究を学ぶ。

(2) 検証授業の実施・一人一実践

先行研究の授業を参考にし、実践を行う。授業案検討を十分行い、検証授業を行う。指導主事を招聘し、指導を受ける。

各学年、1年間に1回は、算数科において、身に付けた知識・技能を活用していくことを重視した授業を実践する。授業公開を行い、なるべく全員が参観し、相互の授業改善の機会とする。

(3) 児童の実態の把握

CRT・学力診断テストなどの結果や学級力向上プロジェクトの取り組み、Q-Uなどを活用しての実態把握により、児童の現状の課題を的確につかむ。

(4) 学習規律・習慣の確立

家庭と連携しながら、「三富小学校の学習のきまり」〔基本的な学習習慣〕〔基本的な学習用具〕の習慣化、家庭学習の定着を目指して、各学年の発達段階に応じた取り組みを進めていく。

年間校内研修計画

回	月日(曜)	内 容	提案	TC 要請
1	4 / 9 (水)	今年度の校内研究の方向性の決定	研究主任	
2	4 / 23 (水)	研究主題の設定、研究計画の概要 研究計画の具体、研究組織・研究計画の検討	研究主任	
3	4 / 30 (水)	研究主題の設定、研究計画の概要 研究計画の具体、研究組織・研究計画の決定	研究主任	
4	5 / 26 (月)	算数科における活用学習についての学習会	研究主任・講師	○
5	6 / 11 (水)	現代的課題学習会(英語科)	研究主任	
6	6 / 25 (水)	学級力向上プロジェクトの取組についての学習会	研究主任・講師	○
7	7 / 2 (水)	一人一実践授業研究会① 第3学年 加々美	授業者	
8	8 / 20 (水)	先進校の実践を学ぶ学習会 教育課程還流報告、各種研修会報告	研究主任 各種研修会参加者	
9	9 / 3 (水)	学級力向上プロジェクトの取組についての情報交換	学級担任	
10	9 / 10 (水)	一人一実践授業研究会② 第1学年 平塚	授業者	
11	10 / 8 (水)	第6学年検証授業の指導案検討	授業者	
12	10 / 15 (水)	一人一実践授業研究会③ 第4学年 野尻	授業者	
13	10 / 22 (水)	検証授業 第6学年 竹川	授業者	○
14	11 / 5 (水)	一人一実践授業研究会④ 第5学年 藤波	授業者	
15	11 / 19 (水)	一人一実践授業研究会⑤ 特別支援 古屋	授業者	
16	12 / 3 (水)	学級力向上プロジェクトの取組についての情報交換	学級担任	
17	1 / 28 (水)	1年間のまとめ・成果と課題	研究主任	
18	2 / 25 (水)	次年度の方向性について	研究主任	
19	3 / 4 (水)	研究集録作成作業	全員	